

## 1. 学校教育目標の設定

### 子どもが輝き、ともに学び合う鴨一小

#### (1) 「子どもが輝き」とは？

学校は、子どもと教職員、保護者、地域の方々と構成される。しかし、その主役は子どもである。そして、学校の目的は、子どもの成長を促すということである。そう考えると、学校では常に子どもが中心になっていて、子どものために活動が組織されることになる。子ども中心の学校では、子どもの輝く姿が見られるはずである。

子どもの成長を促す、子どもを中心に据えた学校では、「自ら取り組む」という自主的主体的な学習活動が行われる。子ども一人ひとり自分の居場所をもち、自分の存在価値を自他共に認めていく。そんな子どもこそ輝いていると考える。

#### (2) 「ともに学び合う」とは？

ここでいう「学び」とは広い意味で解釈したい。教科書に書かれていることばかりでなく、様々な学びが学校にはある。また、学ぶのは子どもばかりではない。教職員も保護者や地域の方々も、学校に関わることで互いに多くのことを学び合うことになる。何かを一方的に与えるのではなく、互いに影響しあい、互いに与え合うのである。それがまさに、「ともに学び合う」ということになると思う。

## 2. 学校教育目標の取り組み

学校教育目標をより具体化するためには、取り組み方針を明確にしていくことが必要である。目標達成のために学校が何をするのかを明確にして、教職員がその取り組みの方針を共有することが重要であると思う。

#### (1) 取り組みの方向性

学校教育目標の達成に向けて、次の3つの視点で取り組んでいくことにした。

- 学習面
- 行事面
- 保護者・地域との関わり

この3つの視点を受けて、次のような方針を立てた。

子どもの意欲とかかわりを大切にした授業を展開していきます。

子どもの主体性とふれあいを大切にした行事・活動にしていきます。

保護者・地域の方々と、ともに学ぶ機会を増やしていきます。

#### (2) 取り組みの内容について

子どもの意欲とかかわりを大切にした授業を展開していきます。

子ども自身の課題の追求を大切にします。

子ども自身の課題を大切にすることを学習とは、子ども自身の自己決定を大切にすることである。今までの授業は、本当の意味で、子どもたちから生み出される課題で学習が展開していたのだろうか。私たちの反省の意味も込めて、改めて、子どもたち自身からわき上がる課題に目をむけ、学習を展開していくことが必要である。

### ○学習時間や学習空間の弾力的な扱いをしていきます。

子どもたちの自己決定を尊重した学習を展開するためには、学年・実態に応じて、子どもたちに学習をゆだねていく必要がある。その際、学習時間や学習空間についても子どもたちにゆだねていく必要が生じてくる。今までの“45分”という枠や“教室”という枠の中だけではおさまらない面が出てくる。そこで、ノーチャイム制を生かしつつ、学習時間と学習空間を今まで以上に弾力化させていくことが必要である。

### ○基礎・基本の指導を充実していきます。

平成23年度からの新学習指導要領完全実施と共に、横浜版学習指導要領に基づいた、一人ひとりの子どもに「しっかり教えしっかり引き出す」指導を通して、「知」「徳」「体」「公」「開」で示す「横浜の子ども」の育成をめざす。「横浜版学習指導要領」で示された内容をふまえ、日々の授業で一人ひとりの子どもに、基礎的・基本的な知識・技能と学び方を教え、関心・意欲・資質・能力を引き出していく。

## 子どもの主体性とふれあいを大切にした行事・活動にしていきます。

### ○たてわり活動

たてわり活動には、全校ふれあい遠足、6年生ありがとうの会、ふれあい遊び、ふれあい給食などがあり、それぞれ、子どもの主体性とふれあいを大切にして活動できるように支援していく。

### ○運動会

「みんなでふれあおう」「力いっぱい取り組もう」「地域とふれあおう」の三つのねらいを掲げ、子どもの主体性・自主性を伸ばしつつ、子どもたち同士のかかわり合いを育てていく。また、各学年の実態に応じた演技・競技等を行うことにより、自分の力を精一杯出そうとする姿勢を大切にする。

さらに、たくさんの「人」とのかかわり合いを通して、社会の一員としての自覚を深めていきたいと考える。

### ○学習発表会

児童の創意工夫により主体的・組織的な活動になるようにしていく。

### ○宿泊体験学習・各学年の社会科見学

各学年の社会科見学や宿泊体験学習やその他の活動についても、子どもの興味・関心、意欲を大切にして主体的に活動できるように支援していく必要がある。

## 保護者・地域の方々と、ともに学ぶ機会を増やしていきます。

### ○「学ぼうデー」の実施

「学ぼうデー」は、1年に1回、保護者と子どもたちが一緒になって学習する日を設定しようというものである。例えば、一緒になって活動したり、あることに詳しい保護者の方を講師としていろいろなことを教えていただいたり、講演していただくのもいい。学習

のまとめの活動、学習の発展としての活動などを、保護者と一緒に学ぶ機会とする。

○**地域との交流を深めます。**

地域に伝わる様々な風習や伝統芸能や、産業について地域の方々と交流しながら学ぶ機会を積極的に設けていく。